

秦野市公共施設再配置計画推進会議開催結果

会議名	□ 令和 年度 第 回 本部会		
	■ 令和 4 年度 第 2 回 学校施設との複合化		プロジェクトチーム
	■ 令和 4 年度 第 2 回 学校施設との複合化		ワーキンググループ
開催日時	令和 5 年 3 月 17 日 (金) 午前 10 時 ～ 午前 11 時 45 分		
開催場所	3 A 会議室		
出席者	文化スポーツ部長	福祉部長	教育部長
	防災課長	生涯学習課長	高齢介護課長
	保育こども園課長	こども育成課長	教育総務課長
	政策部長 (チームリーダー)	行政経営課長 (グループリーダー)	
	事務局 行政経営課 課長代理・担当技幹		
議 題	1 各施設における検討状況について		
	2 その他		
配付資料	資料 1 新たな学びのスタイルに対応した学校のあり方<基本スタイル>骨子 (案)		
	資料 2 南公民館及び大根公民館の整備の方向性について (案)		
	資料 3 西公民館利用者アンケート		
	資料 4 令和 4 年 11 月 17 日 付け 通知 「老人いこいの家くずは荘の今後の方向性について」		
	参考資料 1 学校施設との複合化に向けた検討スケジュール		
	参考資料 2 南公民館のリース方式による整備について		
会 議 結 果			
スケジュールに基づき、各施設の検討状況を共有したほか、南公民館及び大根公民館については、示された方向性 (案) に向け、進めていくことで決定した。			
会 議 概 要			
1 各施設における検討状況について			
【学校施設について】			
資料 1 に基づき、教育総務課長から説明			
① 学校施設を一体化した場合の建物面積は、どのように算出するのか。 → 整備年度が決まれば、その年度の児童生徒数に合わせて計算する。整備の基礎となる数字のため、適宜見直し、反映する (教育総務課長)。			
② 現状、机と机の間隔はどの程度か。 → 50～70センチ程度しか確保できていない (教育総務課長)。			
③ 学校と公民館が複合化することで、「防災機能」に何らかの影響はあるか。 → 小中学校が隣接している場合は特に影響はないが、それ以外の学校の場合、「遠くなる」などの意見が、地域から出る可能性がある。しかし、他の避難所で、想定避難者数をカバーできるので、学校の一体的整備を止める理由にはならないと考えている。一方で、風水害時の避難所となる公民館から防災備蓄倉庫が近くなるメリットがある (防災課長)。			
④ 小中学校を一体化することにより、学校までの距離が遠くなる児童生徒のため、スクールバス導入の検討はしているか。 → 具体的には検討していないが、必要だと考えている (教育総務課長)。			
【公民館について】			
資料 2、3 及び参考資料 2 に基づき、生涯学習課長から説明			
⑤ 将来的な複合化を見据えた場合、学校と公民館で耐用年数に隔たりがある場合の対応はどのようなか。 → 再配置計画では、学校との複合化を基本としているので、いずれかを長寿命化するなどの対応をしながら整備する。極端に隔たりがあるなど、特殊な事情がある場合は、リースなどの建替えを経て、複合化することもあり得る (行政経営課長)。			

⑥ 公民館の更新を再配置計画の更新年度とするか、又は保全計画の終局年度とするかによって、学校の整備時期の決定に影響するので、整理が必要だ。

→ 現状、はっきりしない部分があるので、整理する（文化スポーツ部長）。

【老人いこいの家について】

資料4に基づき、高齢介護課長から説明

≪説明概要≫

昨年度、行政経営課とともに指定管理者（くずは荘管理運営委員会）との意見交換を重ね、当面の間、必要な修繕をしながら継続使用することとし、北地区の学校施設が耐用年数を迎える令和29年頃を視野に、北地区全体の公共施設のあり方を具体的に検討することとした。

【児童館について】

こども育成課長から説明（資料なし）

≪説明概要≫

- ・ 児童館全体の方向性を現在まとめている。利用者数では測れない地域特有の事情などに配慮した上で、半日館への移行を進めていく。
- ・ ほとんどの施設が老朽化しているので、学校と公民館の複合化に合わせた機能移転を想定しているが、子どもの視点から、利用しにくい施設とならないように努めていく。

⑦ 平沢児童館の機能を南公民館へ移転する場合、どのタイミングで行うことになるのか。

→ リースでの建替え時ではなく、学校との複合化のタイミングとしたい（こども育成課長）。

【はだのこども館について】

事務局から、視察の概要について報告（武蔵野プレイス）

【こども園について】

保育こども園課長から説明（資料なし）

令和6年度末の「子ども・子育て支援事業計画」改定に向け、令和5年度に保護者ニーズ調査などを実施する。同計画の中で、園児数の推移や保護者ニーズを踏まえ、どのようにマッチングしていくか整理をしていくので、ハード面については、再配置計画と連携して進めていく。

2 その他

事務局から、今後のスケジュールについて報告

備考